

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第279回

蜷川幸雄

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年11月8日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

生意気だったんだけど、
その生意気さに実力が伴わないから
おもしろがられた。

蜷川 幸雄は、日本の演出家、映画監督、俳優。位階は従三位。勲等は文化勲章。桐朋学園芸術短期大学名誉教授、文化功労者。



Column

今回の言葉は『じゃあ全然ダメなヤツだったんじゃない…』と感じる人もいるかもしれませんが、私はこの言葉を知った時に、『なぜこのようなダメだった自分をわざわざ晒すようなことを言ったのだろう』と疑問を持ちました。演出家として非常に厳しく、どんなに有名な俳優さんにでも一切手加減なしといったイメージの蜷川さんですから自分の威厳が保てなくなるような要素があることなんて言わない方がいいはずと感じたのです。これはあくまでも私の想像ですが、この言葉を発したのは『その人のおかげで今の自分がある』という“感謝”があるからではないでしょうか。ことわざに『出る杭は打たれる』というものがあります。意味としては、『才能・手腕があってぬきんでている人は、とかく人から憎まれる。さし出たことをする者は、人から非難され、制裁を受ける。』というものです。蜷川さんは当時の自分を実力不足だと表現しています。しかし、自分の才能を見出してくれた人がいて、自分に最適な方法で引き上げてくれたからこそ開花したのだということが言いたかったのではないのでしょうか。

実力が伴わないのに生意気な人間は批判されるか笑われるかがほとんどでしょう。蜷川さんほどの才能であれば開花する前の段階でも気づいてもらえるのかもしれません。しかし現実には『力もないのに生意気だ…』と思われて終わることがほとんどでしょう。当時の蜷川さんをおもしろがった人との出会いがなかったら、もしかしたら蜷川幸雄という素晴らしい才能は世に出ていなかったかもしれません。私はスポーツの指導者として、これまでも指導をする中で多くの素晴らしい才能たちとの出会いがありました。そして、今回の言葉を知ったことで、これまでに自分が見逃してしまったがために開花させられなかった才能があったのかもしれないと思いました。そして、誰にでも必ず素晴らしい可能性があること、可能性を見出して成長へのアドバイスをする前に、まずその人を知ること、一緒に進むことが重要だと改めて感じました。

可能性を見出し、成長させてくれるのは大人や先生や親だけではありません。自分よりも知識がある人だけではありません。自分の可能性に期待し、互いを認め合いながら進む正智生であってほしいと願っています！